第２学年　国語科　学習指導案

１　単元名　　比べて読むことで，作者の意図を考えよう
教材名　「走れメロス」太宰治（三省堂平成 21 年度版「現代の国語」２年）
「デイモンとピシアス」鈴木三重吉

２　単元の目標

○　交流活動を通して，自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。
（国語への関心・意欲・態度）

○　二つ以上の文章を比べて読むことを通して，展開や表現の意図を考えることができる。
（読むこと）

○　表現の効果や作者の意図を自分の言葉で説明することができる。
（言語についての知識・理解・技能）

３　単元の評価規準

【関心・意欲・態度】	【読む能力】	【言語についての知識・理解・技能】
・仲間と交流することで，自分と他の考えを比較・関連付けて考えようとしている。	・叙述に即して，登場人物の考え方や心情の変化を読み取っている。 ・表現を根拠にして，作者の意図や主題を自分の言葉で説明している。	・色を表す語句や象徴，視点の位置の違いによる効果，登場人物の対比を自分の言葉で説明している。

４　単元と指導の構想

(1) 研修主題とのかかわり

本校国語科では，「読み方，書き方などの身に付けた知識や技能を活用して，積極的に表現する生徒」を目指す生徒像として設定している。

本実践では読むことの教材で，「読み方に関する身に付けた知識や技能」を活用させたい。本単元で活用させたい「読み方に関する身に付けた知識や技能」とは，以下の五つとする。

①　視点（「未知へ」「小さな手袋」「短歌の世界」）
②　色彩（「短歌の世界」）
③　対比（「短歌の世界」）
④　象徴（「小さな手袋」）
⑤　根拠となる表現を基にした解釈

また「積極的に表現する生徒」とは，次の二つとする。

①　自分の考えを広げたり深めたりするために他の生徒と交流し，仲間の考えを生かして自分の意見を書いたり，発言したりできる生徒
②　学習内容から新たに課題を設定し，課題解決しようとする生徒

「積極的に表現する生徒」を育成するための手立てとして，比べる学習を位置付ける。比べる学習とは，二つ以上の文章を比べることと，生徒同士の意見交流を行うことである。二つ以上の文章を比べることで，展開や表現の違いを明確にし，なぜ違うのかと考えるようになる。また，教師の解釈を一方的に与えるのではなく，生徒同士の意見交流を行うことで，他の人の考えとの違いを明確にし，なぜ違うのかを考えるようになる。比べる学習を位置付けることで生徒が主体的に考えるようになれば，生徒自ら課題を設定し，「読み方に関する身に付けた知識や技能」を活用して，展開や表現の意図を「積極的に表現する」ようになると考えた。

(2) 単元のとらえ

「走れメロス」は，主人公メロスがいくつもの困難を乗り越え，自分の身代わりになってくれたセリヌンティウスの信頼にこたえることで，人を信じることのできないディオニス王を変える。「走れメロス」の主題は，一般的に「信実」「友情」とされている。作品の中にも繰り返し出てくる言葉であるし，生徒にとってはとらえやすい。しかし，「信実」「友情」だけでなく，「人間の弱さ」を描いた作者の意図に気付かせたい。

「走れメロス」と「デイモンとピシアス」（鈴木三重吉・1920）は，イタリアの古伝説を基に書いた作品である。二つの作品の最も大きな違いは，誰を中心に描いているかの違いである。「走れメロス」では待たせる身であるメロスを，「デイモンとピシアス」では待つ身であるデイモンを中心に描いている。また，「デイモンとピシアス」では待つ身も待たせる身も疑いを一度ももたないのに対し，「走れメロス」ではそれぞれ一度疑いをもつところも大きな違いである。

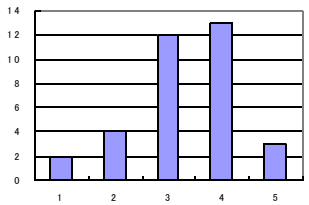
そこで，二つの作品を使い，一つの作品を読んだだけでは気付かない表現の効果や意図に生徒自身が気付き，作者の工夫や意図を考えてみたいという主体的な読みにつなげたいと考えた。

今年生誕 100 年を迎えた太宰の別作品を読ませ，読書指導にもつなげることもねらっている。

(3) 生徒の実態と単元のとらえ

ア　ＮＲＴ（平成21年５月15日実施）の分析

【標準得点】



【大領域の全国比】

内容	全国比
話す・聞く	１０３
書く	１１１
読む	**102**
言語事項	１１６

【中領域の比較】

中領域	項目	全国比
6	**文脈の中での語句の意味の理解**	**88**
7	**文章の構成や展開を把握すること**	**82**
8	主題･要旨の把握､見方･考え方	１１０
9	文章の内容把握や要約、情報収集	１１５

「読むこと」が他の領域より落ち込んでいる。特に「文脈の中での語句の意味の理解」「文章の構成や展開を把握すること」の正答率が全国平均よりも低い。国語に対する苦手意識のある生徒が多く，なかなか自分の発言に自信をもてずにいる。しかし，交流の中で自分の考えを広げたり深めたりする学習に対する取組は良好である。

イ　Ｑ－Ｕ学級満足度調査と生徒の意識調査の分析

相互交流のコミュニケーション活動が成立するためには，交流の仕方をスキルとして教えるだけでは難しい。人間関係や学習活動に対する意識が重要な要素となる。そこで，以下に当該学級の調査結果を示し，分析する。

【生徒の学習活動に対するとらえ方】（平成 21 年 10 月 6 日実施）人数（%）

文章を読んで次のような場面はあったか	何度か	１度	全然
①自分が思ったことや考えたことについて意見を言う	２４(75%)	５(16%)	２(9%)
②自分が思ったことや考えたことについて意見を書く	２４(75%)	５(16%)	２(9%)
③感じた・考えた・分かったことを班で話し合う	１８(56%)	１１(35%)	２(9%)

【生徒の学習活動に対する受け止め方】（平成 21 年 10 月 6 日実施）人数（%）

次のことについてどう思うか	とても思う	思う	少し思う	思わない
①読んだことについて意見を言うのが楽しい	１(3%)	３(10%)	１４(48%)	１２(41%)
②読んだことについて意見を書くのが楽しい	３(10%)	４(14%)	１６(55%)	６(21%)
③読んだことについて班で話し合うことが楽しい	３(11%)	７(25%)	１０(36%)	８(29%)
④国語の授業が楽しい	１(3%)	１０(35%)	１５(52%)	３(10%)

【生徒の学習活動に対するとらえ方】を見ると，自分の意見を書く時間や，他者と交流する機会の充実を心がけてきた結果が，少しずつ出ている。班で話し合うようにさせる場面が少ないのは，全体での交流を多く取り入れたためだと考えられる。班での交流では，自分の意見を発表するだけの一方通行のコミュニケーションで終わってしまうことが多い。全体での交流では，仲間の意見に自分の意見をつなげたり，質問や反論をしたりする相互交流のコミュニケーションができるようになってきている。発言する生徒も４月の初めより増えてきている。

【生徒の学習活動に対する受け止め方】では，意見を言うことよりも書くことの方が楽しいと思う生徒の割合が多い。自分の意見が正しいかどうかを気にして発言できなかったり，苦手だと感じたりしているのではないか。意見を言うことよりも班で話し合うことのほうが楽しいと思う生徒の割合が多いことから，自分の意見を書いた後に仲間と交流し，その後，全体で交流するというように話し合いの手順を工夫していきたい。

(4)　指導の構想

以上のことを踏まえ，次のような手立てを取る。

①　三次構成で授業を組み立てる

第一次では，下位生徒に配慮したスモールステップとして，繰り返し音読したりあらすじをつかむための問いで人物や状況の設定を理解させたりする。

第二次では，感想・疑問を全体で交流させ，「読み方に関する身に付けた知識や技能」を活用して多様な視点から作品を考えたり，学習課題を設定したりする場面を設定する。

第三次では，生徒の感想・疑問から設定した課題について，交流活動を通して課題解決する場面を設定する。

②　教材の文章を自分で書き換える学習を位置付ける

誰を中心に描くかによってどんな違いが出るかに気付かせるために，話者の視点の位置を変えて作品を書き換えさせる。「走れメロス」では，話者の視点はメロスとともに移動している。王やセリヌンティウスはメロスが王城に戻ってくる最後の場面まで登場しない。そこで，王やセリヌンティウスの　近くに視点があるように書き換える。自分で書き換えてみることによって，読み手として受け止めるだけでなく書き手としての工夫や意図を主体的に考えるようになるだろう。

③　比べる学習を位置付ける

本単元での比べる学習とは，以下の四つの学習である。詳しくは，本時の構想で述べる。

ア　「走れメロス」の話者の視点の位置を変えて自分で書き換えた文章と仲間の書き換えた文章とを比べる

イ　自分で書き換えた文章と「デイモンとピシアス」とを比べる

ウ　「デイモンとピシアス」と「走れメロス」とを比べる

エ　自分の考えと仲間の考えとを比べる

④　ワークシートを工夫する

長い文章を読むことに対する負担感，抵抗感が大きい生徒への配慮としてワークシートを工夫する。第３時では課題の難易度を☆の数で示したワークシートを用意し，生徒に課題を選ばせる。また，第４時ではヒント入りとヒントなしのワークシートを用意し，生徒にどちらのワークシートを使うか選ばせる。

また，第２時・第５時の交流で使うワークシートには，「読むことに関する身に付けた知識や技能」の視点，色彩，対比，象徴の観点を入れておき，生徒が活用したい観点を選んで記入できるようにしておく。これらの観点を活用できなかった生徒には，仲間との交流

を通してこれらの観点にも気付かせたい。

さらに，根拠となる表現と解釈を区別させるために，第２時では□の中に根拠となる表現を，○の中に解釈を書くワークシートを用意する。第３時では「(本文抜き出し＝根拠となる表現）から（メロスは◇◇な性格である＝解釈)」という文型を入れたワークシートを用意する。

(5) 指導と評価の計画（全７時間　本時５／７）

次	時	○ ねらい ・主な学習活動	評価規準 【評価方法】	評価の観点 関	読	言	十分満足できる（A）	努力を要する生徒 （C）への指導
一次	1	○ 正確に読む。 ・範読を聞いたり，音読したりする。	正しく，すらすら音読することができる。【音読】		○	○	表現を工夫して音読することができる。	仲間に教えてもらいながら，音読させる。
		・新出語句の意味を確認する。	語句の意味を説明することができる。　【ワーク】		○	○	前後の文脈から，語句の意味を説明することができる。	仲間の発言や教師の説明をメモさせる。
	2	○ 人物や状況の設定を理解する。 ・あらすじをつかむための問いに答える。	登場人物やできごとなどのあらすじをつかむことができる。　【ノート】		○		あらすじをつかむための問いに８割以上答えることができる。	教科書のどこに書いてあるかを確認させる。
二次		○ 「読み方に関する身に付けた知識や技能」を活用して多様な視点から作品を考える。 ・心に残ったこと，疑問に思ったことを書き，交流する。	表現を指摘して感想・疑問を書くことができる。 【ワークシート】 感想・疑問を仲間と交流することができる。【発言】	○	○		「読み方に関する身に付けた知識や技能」を一つ以上活用して感想・疑問を書くことができる。 仲間の考えに自分の感想・疑問をつなげたり，質問をしたりすることができる。	どの場面・表現が印象に残ったか対話しながら書かせる。 仲間の発言をメモさせる。
	3	○　登場人物についてまとめる。 ・選択課題から一つ以上選んで，登場人物についてまとめる。 課題①　メロス 課題②　メロスと王 課題③　前半のメロスと後半(P.87 1.16～P.89 1.9)のメロス	複数の表現を根拠に，登場人物の人物像を説明することができる。 【ワークシート】【発言】		○	○	人物または前半と後半を対比的に説明することができる。	メロスに関する情報を抜き出すワークシートを用意し，対話しながらキーワードを書かせる。
	4	○　視点の位置を変えて作品を書き換える。 ・視点がセリヌンティウスか王と一緒に動くように作品を書き換える。	セリヌンティウス，王のどちらかを選択し，作品を書き換えることができる。　【ワークシート】		○	○	文体，設定を理解した上で作品を書き換えることができる。	ヒント入りワークシートを用意する。
	5	②　展開や表現の意図，作品の主題を考える。 ・二つ以上の文章を比べ，展開や表現の相違点を挙げる。 ・展開や表現の意図，作品の主題に関する学習課題を設定する。	展開や表現の相違点を指摘し，学習課題を設定することができる。 【ワークシート】		○	○	展開や表現の相違点を複数挙げ，作者の意図や主題に関する学習課題を設定することができる。	対話しながら相違点や疑問点を挙げさせる。
三次	6	○展開や表現の意図，作品の主題を考える。 ・「読み方に関する身に付けた知識や技能」を使って，学習課題を解決する。	学習課題に対する自分の考えを説明することができる。　【ノート】【発言】		○	○	作者の意図や主題に関する学習課題に対する自分の考えを，根拠を複数挙げて説明することができる。	仲間の発言を参考にさせる。

	7	○　学習のまとめをする。 ・単元テストをする。	場面の展開や主人公の心情などの問いに答えることができる。【単元テスト】		○		単元テストで８割以上の問いに答えることができる。	ノートを見ながら問いに答えさせる。
		・太宰治の別の作品を読み，心に残ったこと，疑問に思ったことを書く。	太宰治の別の作品を読み，感想を書くことができる。【学習カード】	○	○		太宰治の別の作品を読み，印象に残った表現を指摘して，感想を書くことができる。	どの場面・言葉が印象に残ったか対話しながら書かせる。

５　本時の学習

(1) ねらい

○　二つの文章を比べることを通して，「読み方に関する身に付けた知識や技能」を活用して，展開や表現の相違点を指摘することができる。

○　二つの文章を比べることを通して，展開や表現の違いに気付き，作者の意図や主題に関する学習課題を設定することができる。

(2) 構想

①　比べる学習を位置付ける

本時での比べる学習とは，以下の四つのうちイ，ウ，エの学習である。

ア　「走れメロス」の話者の視点の位置を変えて自分で書き換えた文章と仲間の書き換えた文章とを比べる

イ　自分で書き換えた文章と「デイモンとピシアス」とを比べる

ウ　「デイモンとピシアス」と「走れメロス」とを比べる

エ　自分の考えと仲間の考えとを比べる

前時では，自分が書き換えた文章と仲間の書き換えた文章とを比べる。交流する中で，セリヌンティウスがたった一度だけメロスを疑う場面や，メロスが帰ってくるかどうかに対する王の思いの描き方によって，「走れメロス」の作品解釈が違うことに気付き，もう一度「走れメロス」を学習者が読み返すことにつながるだろう。

本時では「デイモンとピシアス」を読む。生徒は，前時に自分が書き換えた文章と「デイモンとピシアス」を比べて読み，「走れメロス」には書かれていない王が人間不信になるまでの経緯やセリヌンティウスが待っている間の心情について，興味をもって読むだろう。(イ)

さらに，「デイモンとピシアス」と「走れメロス」とを比べて読むことで，誰を中心に描くかによる違いや，人を疑うか疑わないかの違いに気付くだろう。違いが明確になることで，なぜ違うのかを考えてみたいという意欲につながり，作者の意図や主題に関する学習課題を自ら設定できるようにさせたい。(ウ)

②　交流の手順，方法を工夫する

自分の意見が正しいかどうかを気にして発言できなかったり，苦手だと感じたりしている生徒が半数近くいる。全体での交流活動では，多いと 20 人，少ないと 10 人くらいの生徒しか発言しない。そこで，自分の意見を書いた後に班の仲間と交流し，その後全体で交流するという手順で交流活動を行う。

班の交流では，自信のない生徒が発言しやすいように，書いた意見の少ない生徒から発言させる。また，できるだけ前の人の考えにつながるように意見を出させることで，自分と仲間の意見を比較・関連付けて考えるようにさせたい。(エ)

(3) 展開

過程	学習内容・活動	教師の働き掛け（T）と生徒の反応（・）	指導上の留意点と評価【方法】
導入 ３分	○　前時の学習を想起させる。 ○　学習のめあてを確認する。	前の時間は，視点の位置を変えて作品を書き換えました。どんなことに気付きましたか。 T　挙手で発表させる。 今日は，二つの文章を比べて読むことで，その違いについて意見を交流しましょう。	・「違いは何か」と板書する。

展開 15分	○　中心人物の違う作品を読む。	指示１　「デイモンとピシアス」という作品を読んでみましょう。 Ｔ　プリントを配布し，範読する。 ・前時に自分が書き換えた文章と比べて，興味をもって読む。 ・「走れメロス」との共通点や相違点に気付く。 発問１　気付いたこと，感じたことはどんなことですか。 Ｔ　列指名で，発表させる。 ・「走れメロス」と似ている。 ・王が人間不信になったのはやはり理由があったようだ。 ・セリヌンティウスに当たる人物の待つ様子が書かれているが，自分が書いたものとは違っている。 説明　「デイモンとピシアス」は，「走れメロス」と同じ古い伝説を基に書かれた作品です。 Ｔ　メロスに当たるのがピシアス，セリヌンティウスに当たるのがデイモンであることを確認する。	・印象に残ったところ，疑問に思ったところに線を引きながら聞くように指示する。 ・大きく違う点から書くように指示する。
20分	○　二つの作品を比較し，相違点を挙げる。	発問２　「走れメロス」と「デイモンとピシアス」の違う点は何ですか。ワークシートに書きなさい。 Ｔ　５分間，各自で書かせる。 ・「読むことに関する身に付けた知識や技能」（視点，色彩，　対比，象徴）を使って，違う点を書く。 指示２　書いたものを班の仲間と交流しましょう。 書いた数が少ない人が自分の書いたものを一つ言います。次は，似ている人が言います。できるだけ前の人の考えにつながるように意見を出し合います。時間は 10 分です。 仲間の考えはワークシートに書きましょう。 交流の終わった班の発表係は，黒板に一つ書きなさい。他の班と重ならないように書きなさい。 ・「走れメロス」ではメロス（待たせる身）が，「デイモンとピシアス」ではセリヌンティウス（待つ身）が中心に描かれている。＜視点＞ ・「走れメロス」には赤に関する色が多く出てくるが，「デイモンとピシアス」には出てこない。＜色彩＞ ・「走れメロス」「デイモンとピシアス」ともに，メロスと王は対比的に描かれている。＜対比＞ ・「デイモンとピシアス」には象徴的な表現がない。＜象徴＞	・「読むことに関する身に付けた知識や技能」（視点，色彩，対比，象徴）の観点を入れたワークシートを用意する。ワークシートは，□の中に根拠となる表現を書く形式にする。 ・５分たったら，書けた数を挙手で聞く。 「読むことに関する身に付けた知識や技能」を活用して，相違点を指摘することができる。【ワークシート】 感想・疑問を仲間と交流することが

10分	○　学習課題を設定する。	・「走れメロス」ではメロスもセリヌンティウスもお互いに一度だけ疑うが，「デイモンとピシアス」では一度も疑わない。＜観点以外＞ 発問３　この後，考えてみたいことは何ですか。問いの形でワークシートに書きなさい。 T　書けた生徒からワークシートを持って来させ，板書させる。 ・なぜ「走れメロス」ではメロスを中心に描いたのか。 ・なぜ「走れメロス」ではメロスもセリヌンティウスも人を疑う設定にしたのか。	できる。　【発言】 ・一文で書くように指示する。 作者の意図や主題に関する学習課題を設定することができる。【ワークシート】
まとめ ２分	○　本時のふり返りを書く。	指示３　「振り返り」を書き，提出しなさい。	

５　本時以外の展開

(1) 第１時

過程	学習内容・活動	教師の働き掛け(T)と生徒の反応(・)	指導上の留意点と評価【方法】
導入 （２分）	○　学習のめあてを確認する。	今日は，小説を読んで意味が分わかるようにしましょう。	
展開 (20分)	○　一読する。	指示１　教科書Ｐ．78を開きなさい。 「走れメロス」という小説を読みましょう。読めない漢字にはふり仮名をふりなさい。	・新しい登場人物に○をつけながら聞くように指示する。
(15分)	○　音読する。	指示２　班で一文交替読みをしなさい。 T　読めない漢字はお互いに教え合うように指示する。	正しく，すらすら音読することができる。【音読】
(10分)	○　語句の意味を確認する。	指示３　ワークの語句の意味を書き込みます。 発問１　どんな意味か分かりますか。前後の文脈から説明しなさい。 T　挙手で説明させる。 T　挙手がなければ，教師が説明し，メモさせる。 ・ワークに語句の意味を書き込む。	・ワークの語句の他に分からない語句がないか聞く。 語句の意味を説明することができる。【ワーク】
まとめ （３分）	○　本時の振り返りを書く。	指示４　「振り返り」を書き，提出しなさい。	

(2) 第２時

過程	学習内容・活動	教師の働き掛け（T）と生徒の反応（・）	指導上の留意点と評価【方法】
導入 （２分）	○　学習のめあてを確認する。	今日は，あらすじを確認したり，感想・疑問を交流したりしましょう。	

展開 (20分)	○　音読する。	指示１　教科書Ｐ．78を開きなさい。班で一文交替読みをします。	
(10分)	○　一問一答式の問いであらすじをつかむ。	指示２　問題を出します。ノートに１から７まで番号をふりなさい。下には答えだけを書きます。 発問１　主役は誰ですか。（メロス） 発問２　メロスの仕事は何ですか。（牧人・羊飼い） 発問３　メロスは何という町にやってきましたか。（シラクス） 発問４　シラクスとメロスの住む村はどれくらい離れていますか。（十里・約４０キロメートル） 発問５　メロスは何のためにシラクスに来ましたか。（妹の結婚式の衣装や祝宴のごちそうを買うため） 発問６　メロスは何年ぶりにシラクスに来ましたか。（二年） 発問７　メロスはなぜ激怒しましたか。（国王が、人を信ずることができないと言ってたくさんの人を殺したと聞いたから） 発問８　メロスは誰を人質にしましたか。（セリヌンティウス） 発問９　季節はいつですか。（初夏） 発問１０　何日間の話ですか。（四日間） １日目：シラクスに買い物に行った。 ２日目：村に戻って眠り、夜、妹婿を説得した。 ３日目：妹の結婚式を挙げて、眠った。 ４日目：村を出発し、王に信実を教えるために走った。 Ｔ　問題の答えをノートに書き，指名されたら答える。	・問いと解答をテンポ良く進める。 ・分からない生徒には，教科書のどこに書いてあるかを確認させる。 ・日にちごとに教科書に切りの線を書き込ませる。 登場人物や場面の展開などのあらすじをつかむことができる。【ノート】
(15分)	○心に残ったこと，疑問に思ったことを書き，交流する。	指示３　心に残ったこと，疑問に思ったことを書きなさい。視点，色彩，対比，象徴の観点を使って書ける人は書きなさい。 ・ワークシートに表現を指摘して感想・疑問を書く。 ・「わたしは，今宵，殺させる」の部分は「　」がないのに，視点がメロスの心の中に入って書かれている。＜視点＞ ・「王の顔は蒼白で」から，神経質そうな感じや悩みをかかえている様子が分かる。＜色彩＞ ・「王は憫笑した」と「メロスは嘲笑した」の部分から，お互いに相手を馬鹿にしている様子がわかる。＜対比＞ ・「満天の星」は，メロスの自信に満ちた気持ちを表している。＜象徴＞ ・メロスは単純だとは言え，のそのそ王城に入っていくのはおかしい。＜観点以外＞ 指示４　書いたものを発表しなさい。聞いている人は，仲間の考えを自分の感想・疑問と比較したり，関連づけたりしてワークシートに記入しなさい。 Ｔ　挙手で発表させる。 Ｔ　前の発言につなげたり，質問したりする形で発言するように指示する。 ・王城に入って，なぜ王を殺さなかったのか。＜観点以外＞ ・殺してしまったら，小説として成り立たなくなるからではないか。＜観点以外＞	・「読むことに関する身に付けた知識や技能」＜視点，色彩，対比，象徴＞の観点を入れたワークシートを用意する。ワークシートは，□の中に根拠となる表現を，○の中に解釈を書く形式にする。 ・書けない生徒には，どの場面・言葉が印象に残ったか対話しながら書かせる。 表現を指摘して感想・疑問を書くことができる。【ワークシート】 ・机を中央に向けさせる。 感想・疑問を仲間と交流することができる。【発言】

まとめ （３分）	○　本時の振り返りを書く。	指示４　「振り返り」を書き，提出しなさい。	

(3) 第３時

過程	学習内容・活動	教師の働き掛け（T）と 生徒の反応（・）	指導上の留意点と 評価【方法】
導入 （２分）	○　学習のめあてを確認する。	今日は，表現を根拠にして登場人物についてまとめましょう。	・前時の感想交流の中から出た課題をできるだけ取り入れる。
展開 (10 分)	○　登場人物を相関図でまとめる。	発問１　「走れメロス」の登場人物はどんな関係になっていますか。ノートに相関図でまとめなさい。 T　書けた生徒から持って来させ，黒板に書かせる。 ・王（メロスに処刑まで三日間の日限を与える） │ メロス ―― 妹 ―― 妹の婿 │ 竹馬の友 セリヌンティウス（人質）	・書けない生徒には，黒板を参考にして書かせる。
(35 分)	○　選択課題から一つ以上選んで，登場人物の人物像をまとめる。	指示１　「走れメロス」の登場人物について，課題の中から一つ以上選んでまとめなさい。 課題①メロス　課題②メロスと王 課題③前半のメロスと後半のメロス 【課題①メロス】 ・「単純，邪悪に敏感，人を疑うことととうそをつくことが嫌い（根拠となる表現）」から，「メロスは正義感の強い性格である（解釈）」 【課題②メロスと王】 ・「牧人←→王，人を疑わない←→人を信じられない（根拠となる表現）」から，「メロスは正義感が強く←→王は不信感が強い性格である（解釈）」 【課題③前半のメロスと後半(P. 87 1. 16～P. 89 1. 9)のメロス】 ・「人を疑わない←→王を疑う，友を救うために走る←→走るのをやめる（根拠となる表現）」から「完璧な人間←→普通の人間らしい面もある（解釈）」 指示２　書いたものを黒板に書きなさい。 T　同じ課題を選んだ生徒同士で交流した意見を黒板に書かせる。	・課題の難易度を☆の数で示したワークシートを用意する。 ・課題を選んだ生徒から，ネームカードを黒板に貼らせる。 ・書けない生徒には，対話しながらキーワードを書かせる。 ・同じ課題を選んだ生徒同士で，交流させる。 複数の表現を根拠に，登場人物の人物像を説明することができる。【発言】【ワークシート】
まとめ （３分）	○　本時の振り返りを書く。	指示５　「振り返り」を書き，提出しなさい。	

(4) 第４時

過程	学習内容・活動	教師の働き掛け（T）と 生徒の反応（・）	指導上の留意点と 評価【方法】
導入 （１分）	○　学習のめあてを確認する。	今日は，視点の位置を変えて作品を書き換えてみましょう。	
展開	○視点の位置を		

（７分）	変える練習をする。	発問１　この作品の視点は誰と一緒に動いていますか。（メロス） 発問２　視点がセリヌンティウスと一緒に動いたら，「初夏，満天の星である。」の次の文は，どうなりますか。 「どこで，どんなことを考え，何をしているか」を入れて書きなさい。 文体と設定を変えてはいけません。 Ｔ　書けた生徒からノートを持って来させ，発表させる。 ・セリヌンティウスはその夜，牢獄の中で何も考えずにぐっすりと眠った。 ・牢獄に連れて行かれ，縄を外されたセリヌンティウスは，満天の星を見ながら眠った。	
(25 分)	○　視点がセリヌンティウスか王と一緒に動くように作品を書き換える。	指示１　視点がセリヌンティウスか王と一緒に動くように書き換えなさい。 条件 ①　字数は１日当たり１００～２００字 ②　「どこで，どんなことを考え，何をしているか」を入れる ③　文体と設定は変えない 【王】 ・王はその夜，一睡もできなかった。窓から見える満天の星を見ながら考えた。もしメロスが本当に戻ってきたらどうしよう。私の人間不信を変えてくれるのだろうか。いや，メロスは帰ってくるはずがない。人間なんて信じられない。	・自分でどちらの課題について考えるか決めたら，黒板にネームカードを貼らせる。 ・「どこで，どんなことを考え，何をしているか」を書いたヒント入りワークシートを用意する。 セリヌンティウス，王のどちらかを選択し，作品を書き換えることができる。【ワークシート】
(15 分)	○　セリヌンティウスか王を中心人物にして書き換えた自分の文章と仲間の文章を読み比べる。	指示２　自分で書き換えた文章と仲間の書き換えた文章を班で比べてみましょう。 ・「えー、セリヌンティウスってメロスのことを疑ったんだっけ？」 ・「山賊にメロスを襲わせたのは，本当に王なのかな？」 発問３　気付いたこと，感じたことはどんなことですか。 ・挙手した生徒に発表させる。 ・一人の発言につなげて発言するように指示する。 ・セリヌンティウスを中心人物にして書き換えた生徒，王を中心人物にして書き換えた生徒の順に発表させる。 【セリヌンティウスを中心人物にして書き換えた生徒】 ・何日目にメロスを疑うかが違っていた。 ・約束三日目にメロスを疑うほうが，セリヌンティウスとメロスの友情の深さが表れるのではないか。 【王を中心人物にして書き換えた生徒】 ・王はメロスが帰ってきて，自分を人間不信から救ってほしいと思っていたのではないか。 ・人間不信から救って欲しいと思っていたのなら，山賊を襲わせたのは王の命令ではないのではないか。メロスも王を疑っていることになる。	・机間支援で観察し，挙手で出きない場合はできるだけ多くの観点が出るように，意図的な指名をする。
まとめ（２分）	本時のふり返りを書く。	指示２　「ふり返り」を書き，提出しなさい。	

(5) 第６時

過程	学習内容・活動	教師の働き掛け（T）と 生徒の反応（・）	指導上の留意点と 評価【方法】
導入 （３分）	○　学習のめあてを確認する。	今日は，前回出した学習課題について，意見を交流しましょう。 T　いくつかの学習課題を提示する。	○前回生徒が出した学習課題を整理して，いくつかの課題を作って提示する。
展開 (35分)	○　学習課題について，自分の考えを書き，交流する。	発問１　なぜこのような展開や表現にしたのか，文章を根拠にして書きなさい。 T　「…と書いてある。だから作者は◇◇を意図しているのだと考えられる。」という文型を示す。 T　15 分間，各自で書かせる。 指示１　書いたものを仲間と交流しましょう。 一人が自分の挙げた根拠と理由を言います。次は，根拠か理由が似ている人が言います。できるだけ前の人の考えにつながるように意見を出し合います。時間は１５分です。 仲間の考えはワークシートに書きましょう。 交流の終わった班から黒板に根拠と理由を書きなさい。 【例①　なぜ「走れメロス」ではメロスを中心に描いたのか】 T　セリヌンティウスは「たった一度だけ君を疑った」と書いてある。たった一度だけ疑った場面を描くよりも，メロスが約束を守ろうとしている姿や，どうでもいいと投げやりになる姿を描くことで，作者は人間らしさを表現したかったのだろう。 【例②　なぜ「走れメロス」ではメロスもセリヌンティウスも人を疑う設定にしたのか】 T　「デイモンとピシアス」では一度も疑わない。しかし，人間の心情として不自然だ。メロスもセリヌンティウスもお互いを疑うという設定にすることで，作者は人間らしさを表現したかったのだろう。	○どの課題について考えるか決めたら，黒板にネームカードを貼らせる。 ○意図を書けたら，同じ課題同士で交流させる。 学習課題に対する自分の考えを説明することができる。【ワークシート】【発言】
(10 分)	○　学習課題について，全体で確認する。	発問２　黒板に書かれたものに質問や反論はないですか。 T 解釈の違う班があれば，論点を示して質問や反論をさせる。	
まとめ （２分）	○　本時の振り返りを書く。	指示３　「振り返り」を書き，提出しなさい。	

(6) 第７時

過程	学習内容・活動	教師の働き掛けと 生徒の反応（C）	指導上の留意点と 評価【方法】
導入 （２分）	○　学習のめあてを確認する。	今日は，学習のまとめとして，単元テストをしたり太宰治の別の作品を読んだりしましょう。	
展開 (15 分)	○単元テストをする。	指示１　単元テストをします。 T　単元テストを配付し，記名させる。 ・分かる問題から問いに答える。	場面の展開や主人公の心情などの問いに答えることができる。

		・分からない問題はノートを見て，問いに答える。	【単元テスト】
(25 分)	○　太宰治の別の作品を読む。 ○　心に残ったこと，疑問に思ったことを書く。	説明　今年は，太宰治が生まれてから１００年です。 太宰ゆかりの地でイベントが開かれたり，書店で太宰の特集をしていたりします。 指示１　太宰治の作品を一つ選んで読みなさい。 T　「トカトントン」「おしゃれ童子」を用意する。 指示２　心に残ったこと，疑問に思ったことを書きなさい。 ・●振り返りに表現を指摘して感想・疑問を書く。 【トカトントン」を読んだ生徒】 ●何かをしようとすると「トカトントン」という音が聞こえて醒めてしまうというのは理解できないが，熱中していたことに対して突然冷める気分は味わったことがある。 【「おしゃれ童子」を読んだ生徒】 ●おしゃれとは人それぞれのこだわりなのだと思った。	・「人間失格」を読んだ生徒に感想を発表させる。 ・自分でどの作品を読むか決めたら，黒板にネームカードを貼らせる。 ・書けない生徒には，どの場面・言葉が印象に残ったか対話しながら書かせる。 太宰治の別の作品を読み，感想を書くことができる。【学習カード】
まとめ （３分）	○　本時の振り返りを書く。	指示３　「振り返り」を書き，提出しなさい。	